

新潟県

公民館月報 1

平成15年1月号 通巻第599号



表紙 大謀網漁
(粟島浦村公民館)

特集 第36回欧州社会教育事情視察報告

視 点 友をしっかりと抱きしめた

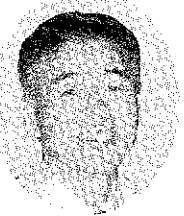
ひろば 冬ごもり

サークル交流 木馬の会 (新潟市中央公民館)

和島切り絵村 (和島村公民館)

素顔拝見 渡辺文雄さん (見附市)

伊東 崇さん (黒川村)



年頭所感

寺町からの会

会長 今井 昭友

私の生まれは寺町、新潟市西堀で三十年余暮らす。

そして七年前、西堀の中央公民館長になる。以下回想すると「にいがた寺町からの会」とは赤い糸で結ばれていた気がする。

着任の頃、小学校同級生の兄で画家の玉井氏が尋ねて来た。氏は新潟を離れ、東京で企画集団「えとえ」を結成し、新潟の役に立ちたい。そして、「寺町文化」を築けないかと熱く語ったのである。

以来、私に「寺」への思いが芽生えたようだ。我が家は小学生時代、疎開で行先を失い寺に(後述の今湊勝念寺)身を寄せていた。自ずと、墓地や境内は格好の「遊び場」になった。

一 寺町からの会との出会い

一 昨年の暮れ、樋口氏(にいがた夕日コンサート仕掛人)に会った。彼とマスコミ関係、建築会社、企画コンサルタント、郷土史家等が「西堀はまちの背骨の様に寺院が建ち並ぶ、この壮観さ。まちの歴史を伝える趣と教え、この中に「宝」が隠されているのでは」と説く。十三年九月、蒲原浄光寺の住職を代表に新潟の歴史を知る学習会が開始された。

私も職員に、地域学「寺町文化」を提唱して来たが、実現せず諦めかけていた矢先の「渡りに舟」。入会と同時に世話役を仰せつかった。

二 活動と運営
昨年一月、第一回実行委員会がスタートし、女子職員も参画することになった。

〈活動〉は、先ずまちへの想いを一人ひとりが話すことから始めた。寺町から「知る」「楽しむ」「活かす」の三つを基本にし、会の〈運営〉は、コミュニケーションを基盤とし、会員同志のメーリングリスト、活動状況を確認する例会(月一回)で充実

を図った。予算はないので、蒲原代表の提案で例会毎に二百円を席料として積み立てた。

次に四月、民放五十周年事業「金閣・銀閣秘宝展」があると知り、これを生かそうと知己のいる民放社の協賛で、「寺」まちあるき地図を当初五千部、七月に二万部増刷した(写真)。

この製作は、メンバーの野内青年(法律事務所勤務)が取材から一切を手がけ、好評と人気を得た。この地図を片手に「寺町散歩花見ごろ」と題し、市民百人でまち歩きを実施した。

更に、七月から十月迄の四回、蒲原日本医史学会理事長、藤村新潟花街研究家を講師に寺町談義「寺町から知るにいがた」を開講し、中公ホールは満席の人気ぶりだった。

員の労作「昭和初期の新潟懐かし映像ビデオ」、四日の最終日は、勝念寺境内で「寺町・縁日・グラフィティ」と銘打ったお祭りが、長岡造形大生の太鼓と笛の音で始まった。紙芝居に見入る子どもたち、大櫓の下でラムネを飲んだりシャボン玉を飛ばす家族連れ、夜は線香花火、参道や本堂のライトアップに挑戦。

私も、昔の町内会の人や旧友とも再会し夕涼み後も、しばし立ち去りがたかった。

この企画は、寺町出身、東京の目下部女史で、縁日の着物姿は美しく今も忘れられない。十三日の旧盆は「あかり」をテーマに、寺町の約三十ヶ寺に手作りの灯明二五〇個を設置し、参拝者から喜んで頂いた。

秋は、照明プランナーの稲葉氏の協力で三つの寺院にライトアップの実験を行った。大晦日は、除夜の鐘にライトアップを——これら年間企画は横山研究員の手をわすれずわせた。こうして初年度は、飛び越した

「にいがたのまちの誇りと夢を探して」活動を続けようと思年会は大いに盛りあがった。

三 地域学と公民館
新潟市地区公民館の坂井輪は、ゴミ問題、東は通船川、西は佐潟、関屋はふるさと関屋菜と夫々の地域学に取り組んだ。思えば、H9・9下越公連研修で澤野津川町長(現県議)は、「狐の嫁入り行列と公民館活動」と題し、人づくり・地域づくりは「公民館が汗を流さねば出来ない」と力説された。

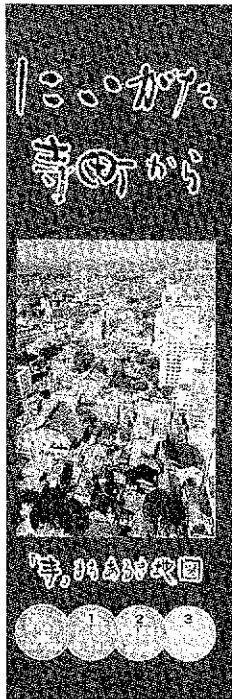
また、H12・11の柏崎市公民館50周年大会で榛村掛川市長は「向都離村の学校教育から選択土着の生涯教育・地域学事始」を熱く話されたことを思い出す。

その時のコーディネーターは榛田新潟日報社報道部長(現新潟市長)であったことが胸裏に焼き付いている。「寺町からの会」は、年男の私に大きな夢を実現させてくれた。

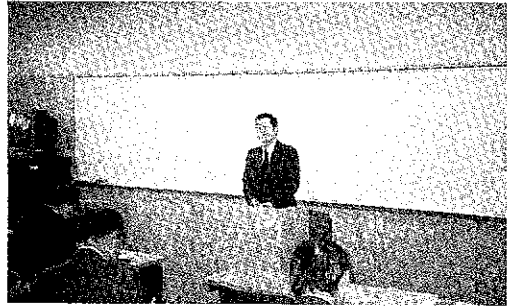
元旦



「羊」今井会長揮毫



平成14年度 関ブロ公連理事研修会開催



△ご講演中の今野雅裕先生

・平14. 11. 28(木)~29(金)
 ・国立オリンピック記念青少年総合センターで
 ・理事等、26人の参加を得て
 今回の研修の特色は、「地方分権と公民館をテーマに、政策研究大学院大学教授今野雅裕先生をお招きしてご講演いただき、また全公連から松下誠会長、石川正夫事務局長、そして全公振連から岩佐正二郎事務局長からも参加を得て、研究協議並びに交歓交流をとおして研修を深めた。

・第1日目は、開会セレモニーに続いて、今野先生からは詳細なレジュメに基づき、懇切丁寧な解説がなされ、時代を先取りした有意義な講演となった(レジュメは事務局にあり、コピー可)。

・第2日目は、研究協議
 全公連の松下会長から、①女性理事、委員の登用、②財務の強化「自立型」志向について、③基本構想委員会の起ち上げについて説明がなされた。
 この後、26回全国大会分科会の担当県、第44回関ブロ大会の持ち方について意見交換がなされた。

視 点

「再会」
 を司る神が
 いるなら
 ば、まさに
 その日、俺
 たちと俺た
 ちの友人
 「薫」の前
 にその神は舞い降り
 た。一日だけでも会っ
 て声をかけたいと平信
 半疑で待っている俺た
 ちの前にバスは到着



し、あいつは降りてき
 た。少し前かがみ気味
 におでこを突き出す風
 体は、まさに幼い頃か
 らの風体で、少し背丈
 が伸びたかなと思う以
 外、何ら変わったところ
 のない姿がそこに

く、顔をくしゃくしゃ
 にして駆け寄ってきた。
 そのあとのことは、
 よく憶えていない。あ
 とで聞くお互いの頬っ
 べたを触ったり、何か
 一言二言は言葉を交わ
 したらしい。それから、

その後、何回か会っ
 て野球をしたり、酒を
 酌み交わしている。
 徐々に気持ちもほぐれ
 たのか平壤での暮らし
 ぶりも話してくれる。
 しかし、子どものこと
 になると表情が曇る。
 子どもの帰国問題が心
 境を複雑にしているこ
 とは言うまでもない
 が、早く良い方向に解
 決して欲しいと願って
 いる。その時は、また
 「しっかしかと抱き合
 合って」一緒に喜び合
 いたいと思っている。

小林 泉

あった。バスを降りて
 少し歩き出したあいつ
 をみんなで呼んだ。「か
 おる、薫」と一瞬、
 こちらを見やったらかと
 思うと俺たちのことを
 即座に認識できたらし
 る。

ほかの友だちが輪の中
 に入れないほど「しっ
 かしかと抱き合っ
 た」のである。これが
 わが友、「蓮池薫と再
 会したときのことであ
 る。

主任)

冬ごもり

上川村公民館運営審議会委員 樋口 節子



「淋し
 さに雪
 蹴つてみ
 る山の正
 月」
 九年前

拙い私の手芸を「おもしろい
 あ」と受け止めてくださる上
 に郷土料理の作り方やむかし
 話、うれしいニュースや、手作
 りの米や野菜のおまけ付きです。
 村の情報にも詳しくなれまし
 た。役場の方々とともに親しく
 なれました。

こんなうれしさを一人占
 めするのは気がひけます。
 みんなに「おすそわけ」
 出来れば、そんな思いで、
 公民館運営審議会委員もお
 引き受けして数年。いささ
 かなりとも御恩返しが出来
 ましたでしょうか。

ひ る ば

十一月二日が初雪でし
 た。
 すでに冬ごもりの体勢に
 入っています。冬のお楽し
 みオペラのアリアのCDも取り
 よせました。大きなキルトを仕
 上げて、2キロのダイエットを仕
 成功させて、息子に「ハリー・
 ポッター」を四巻借りて読みま
 しょう。

以前から習い覚えたパッ
 チワークや刺繍が救いにな
 りました。「毎日何をしてい
 ますか」と聞かれたガソリン
 タンドでの立ち話がきつかけ
 で、その後教育委員会から、
 「パッチワークを教えて」との
 お申し出があった時、一番喜ん
 だのは私だったと思います。
 以後公民館活動の一環とし
 て、絶えることなく週一度の集
 まりは誠になごやかで楽しいも
 のです。



第36回欧州社会教育事情視察報告

11月13日(水)～22日(金)

ドイツ・フランス・イタリア

一行は全国の仲間8人



団長・新潟市中央公民館長 今井 昭友

◇はじめに

今回の視察派遣は、かつては25日間、昨年の4か国、2週間から3か国の8泊10日と期間短縮され、一行8人は11/13～22迄の旅を終えた。

各国を代表する都市・フランクフルト、ハイデルベルグ、パリ、ミラノを中心に滞在。

視察先はドイツ1、フランス、イタリア各2の公的機関。生涯教育・成人教育、ホテル学校といった職業教育、私学の日本人学校を訪問し、国民性の違いを感じたが、いささかの気がかりは、日本人学校に元気がなかったことである。

◇公的機関視察

一 フランクフルト成人教育センター(ドイツ)・14日
人口66万、銀行40、文豪ゲーテの故郷として名高い国際金融都市。学校は小学校から大学を含めて25、成人教育センターは一館で、職員は130(教員50、事務局80)、講座100、4千3百コース、40教室で開催。収入は3億1千6百万ユーロ(1ユーロ約100円)、援助は州等から4百万ユーロ、市から150万ユーロ。受講年令は8才、16才、55才を基準にし、受講国別は43、

トルコ、ロシア、東欧、アメリカ、カナダの順に多く、1/4は外国人。利用者数は年25万(35万人(土、日開放)。特色は中卒者には語学教育。職安とも提携して労働者階級を中心に「質素」を旨とし、ぜい沢を排除している。評価は地域マネージメントとして「地域委員会」があり、市と一緒にを行う。

二 バルトワーズ県生涯教育部ホテル学校(フランス)・18日
フランスの面積は、日本の約1.5倍、人口は5千5百万、96県に分かれ22の地方区がある。この県はベルサイユ市や宮殿を配している。仏には米、英、伊と異なり、「ポランティアの発想」はないという。生涯教育は学校教育を終えた人のために講座をもち、プライベート(私立)、労働省レベル、教育省(グレタGRETA)の三層構造で制度化し、対象者は①16才、25才②失業者、求人、職を探してる人③一般勤労者④更に高い職業能力を求める人の四分類。全国に教委会30、グレタ282あるという。グレタの特色は「独立採算性」で国とは独立した自主運営で、売上の15%は職業税が義務付けられている。因みに、ベルサイユ市のGRETAは講座14、担当71、受講者1万8千人、教員3千2百人という。

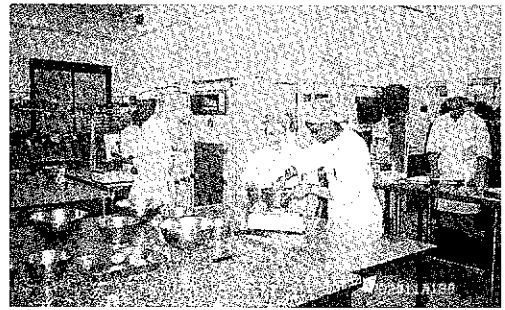
三 ミラノ市成人教育機関ウニトレ「UNITRE」、ミラノの日本人学校(イタリア)・20日
ミラノは北イタリアの町、人口は3百万、ヨーロッパ的な香りがする独特の保守主義を大切に残している町である。ユニットレでは、事務・秘書を担当15人のスタッフで、教員30人も全員ポランティアという。コースは1千科目、生徒は約1千人、授業料は年150ユーロ(1万8千円)。機関は、この授業料のみで運営(約1千8百万円)。生徒の大半は、40才～50才の中年層。下は20才から上は90才まで。とにかく陽気で明るい。絵の教室では、キャンバスを向けてポイズを取ってくれたり、生花では草月流を、剣山まで使う本格的指導で受講していた。

教員も参加者も自分の意思で動き、勉強したい人が教えたい人の下に自然と集まってくるシステムという。とにかく、ポランティアが徹底しているのは

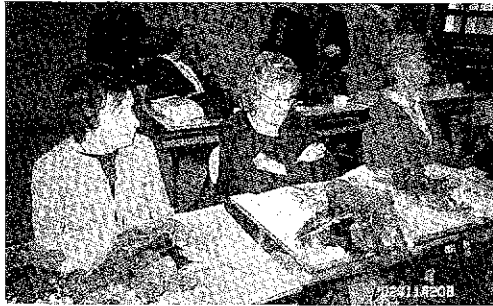
《社会教育事情視察スナップ》



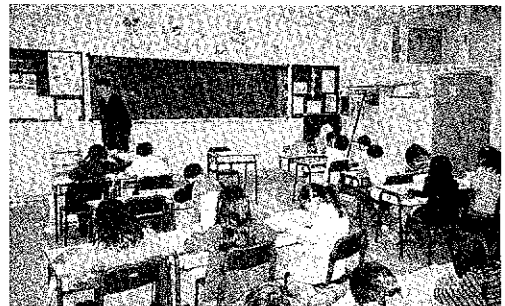
△フランクフルト成人教育センター



△パルトワーズ県ホテル学校



△ミラノ市UNITRE (ウニートレ)



△ミラノ日本人学校

驚いた。

《日本人学校》S1設立、現校長は10代目で女性。教頭は聖籠町出身、名管理理事長が私と同姓で何か親近感を覚えた。児童生徒数100(小学98、中学32)、その内、年間50人が転出入するという。

ヨーロッパには現在83校の日本人学校があるが、内30校が50人以下、授業料は月50ユーロ(年37万8千円)、日本のバブル崩壊後の学校経営は厳しいと胸の内を明かされた。教師は3年交代。地域との交流、治安のことも尋ねたが必ずしも明るい話ばかりではなかった。

◇学校教育制度

移動のバスの中で、通訳から学校教育制度について聞いた。

ドイツは、小学校から大学まで州立。小学校4年までに6回の試験があり進路が3段階に決まる。成績上位は中等学校(ギムナジウム)から総合大学へ。中位は実科学校から専門単科大学へ。下位は基幹学校から職業専門学校へ進むという。

フランスに日本の横並び、中流意識はない。伝統的なエリート教育が支配し、家系が、大学進学を左右し、「生まれも才能のうち」だそう。

◇文化教育施設

ドイツを代表する詩人ゲーテ

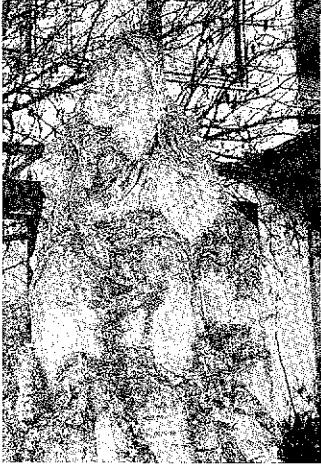
の家を尋ねた。3才で聖書を読んだというが、父は法学者で書斎は本の山、何と部屋数の多いこと。

ライン河畔では、ローレライ伝説の美人像(写真左下)に会い、唱歌「なじかは知らねど心わびて、昔のつたえは……」を一人で口ずさんでいた。

ルーブル美術館は、モナリザの微笑、ミロのヴィーナスとご対面、ノートルダム寺院は、バラ窓の美しいこと、映画「道」を思い出した。圧巻はセーヌ川クルーズ。豪華客船に乗りディナー、演奏と二時間半リッチな気分を満喫できた。晩秋のペリは枯れ葉で実にロマンティックであった。

◇可愛い子には旅をさせよ

この旅には乗り物のトラブルが続発。飛行機4回(天候不良で遅延、無断欠航、黒人搭乗者とステューワーズの口喧嘩、空港スト)、パリ地下鉄は事故で運転休止、バスは2回(駐車違反、待合せ時間の誤認)等に閉口した。帰国して27日、NHK深夜便で「ナポリからパリ



△ライン河畔のローレライ像 (漁師の娘)

ボリからパリ 向かう航空機がハイジャックされた、デモは日常茶飯事、洪水がおきた。」と聞いて、これは取るに足らない事だと悟った。しかし、「災を転じて福となす」の例えの通りイタリアではストの巻き添えで7時間待機となったが、あのロナウド(ワールドカップ優勝)に会え、皆は喜んだ。嬉しいことに、団員の前盛氏(6面別表)は、「来年家族とこの地を再訪したい。」と裏黙な口を開いた。

蛇足ながら私は、欧州旅行が初めてであった。伝統と歴史あふる街々、自国の文化を誇る国民、そして「自己責任」の大切さはいやというほど学ばされた。

日本を見直す良い機会を与えてくれたことに新ためて感謝したい。

終りに、全公連はもとより、関係各位のご厚情にお礼を申しあげ、派遣の成果を今後の日常の中で活かしていくと誓い私の報告とする。

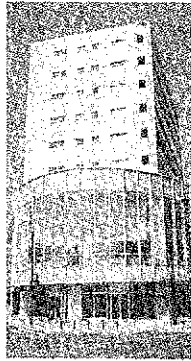
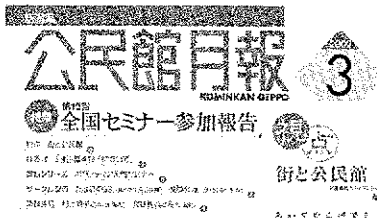
○平成14年3月通巻第589号の記事内容を
ベースにしたイメージ・モデル化

お知らせ!!

当「新潟県公民館月報」(昭・28・2創刊以来)が
次号二月号で第六〇〇号を迎えます

これを契機に

A4判化、二色刷に移行予定です



街と公民館

街と公民館
公民館は、地域の中心として、住民の生活を支える重要な役割を果たしている。近年、公民館の役割はますます重要視されており、地域社会の発展に貢献している。



「ボランティア入門セミナー」
12月14日(日)開催
12月15日(月)開催
12月16日(火)開催
12月17日(水)開催
12月18日(木)開催
12月19日(金)開催
12月20日(土)開催
12月21日(日)開催
12月22日(月)開催
12月23日(火)開催
12月24日(水)開催
12月25日(木)開催
12月26日(金)開催
12月27日(土)開催
12月28日(日)開催
12月29日(月)開催
12月30日(火)開催
12月31日(水)開催

※5面特集から続く 欧州視察団日程

Table with columns for date, city, time, transport, and itinerary. It details a 10-day European tour starting on Nov 13 and ending on Nov 22, with stops in London, Frankfurt, Paris, and Milan.

団員名簿

Table with columns for member number, name, and address. It lists 9 members of the European observation team, including their names and home addresses.

サークル交流

保育室とともに

「私達親が学ぶ」ということ

新潟市木馬の会

木馬の会は、毎週金曜日に、新潟市の中央公民館で活動しています(第2金は、交流集会に参加)。現在7組の親子が活動。母子分離をして、様々なテーマにそって学習をしています。子育てについて、教育について、自分自身の生き方についてなど、様々な視点から考えることで、子育てのヒントを得たり、親自身の目標を見つたりして



います。仲間との学び合いや母子分離をすること、会の中で役割を持つことで、親が生き生きとし、エンパワーメントされていきます。子どもが小さいのに「なぜ学習を？」と疑問を持たれる方もいるかもしれませんが、私達は、子どもが小さいから、親だからこそ学習する意義があると考えています。子どもの成長とともに、親も学ぶことで成長していくことが大切と考えています。今年で23年目となる木馬の会ですが、親と子の学び合いを支えて下さるのは、保育ボランティアの方々や保育室の存在です。木馬の会が、次の親世代まで続くことを願っています。

(同会 木村いほ子 記)

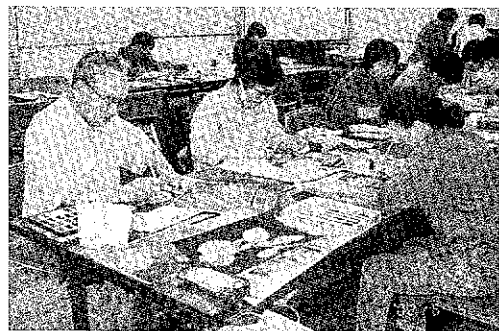
鮮やかな切口

シャープな輪郭線

和島切り絵村

切り絵は、一枚の紙をカッターナイフで切って絵にする絵画技法ですが、大きな特色は、鮮やかな刃物の切り口と、そのシャープな輪郭線にあります。

その魅力に引かれ三年前に「和島切り絵村」として会を発足し、月二回講師を招いて勉強してい



ます。八丁紙を手始めに、白黒の作品から始まり、今では、和紙と絵の具を使ってカラー作品に、挑戦しています。

「良寛の里美術館」や「郵便局」等に展示させていただいたり、また、他町村のサークルと合同作品展を開催したり、美術館めぐりをしたりして、会員同志の交流と親睦を計っています。学校の週五日制に伴う行事の一環として、十一月には小学生と、保護者を対象にした八丁紙の切り絵教室を開き、よろこばれ、私達にとっても非常に有意義なひと時でした。

これからも地域に根ざした活動をも行っていきたいと思えます。(同代表 永塚 進 記)

見附市新潟公民館

主事 渡辺文雄 さん

当公民館は非常勤館長、専任主事、パート事務職員の三人体制です。当館に四月、颯爽と登場して来たのが渡辺文雄主事三十七才。中肉中背美男子結婚二年目、人事異動で建設課より、彼が教育関係の部署が初めてであり、しかも前任者がベテラン主事。相当プレッシャーがあったのではと



たのではと
思われる。
しかしその
心配は見事に
ハズレ就

素顔拝見

任以来少し口数が少ないが、新任とは思えない程活躍している。新規事業も企画し、月一回発行の広報紙にも自分のカラーを出し、地域にも一所懸命飛び込み、評判も上々である。上司の係長からも「お前さんの主事よくやっているね」とのほめ言葉、私も少し鼻高である。彼の特技？を一つ紹介、酒は好きだが飲むとすぐ寝てしまうこと。土日や夜間の仕事が多く不規則な勤務があるので体に気をつけて頑張ってほしい。まもなく新米パパになる予定。(新潟公民館長 中島 格 記)

黒川村教育委員会・社会教育課

主事 伊東 崇 さん

黒川村教育委員会は現在、教育長以下7名で、学校庶務・社会教育・社会体育・公民館事業と全て担当しています。

彼は、文化財が専門で黒川村の職員に採用され、六年目です。(出身神奈川県)最初は戸惑ったと思いますが、今では、すっかり黒川村に溶け込んでいます。

昨年七月に発掘された日本では非常に貴重な縄文人の漆の水差し・櫛・耳飾り等の発見があり特に水差しは、完全な形で見つかったものは、例がなく、毎日



目を輝かせながら仕事に没頭していました。この発掘された漆製品が、今年全国五カ所に展示されました。この貴重な発見が黒川村の財産となり、完全学校週五日制のスタートと重なり、児童生徒の体験活動等の先生として楽しい毎日を送っています。これから熱燗おいしい時季となり、愛妻の鍋料理を食べ過ぎぬように体に気を付けて、お互い頑張りますよ。(社会教育課 片野賀津雄 記)

恵贈資料紹介

家庭教育講座等の事例集

新潟県立生涯学習推進センター



資料紹介が大変遅くなりまして、まづもってお詫びいたします。私どもも支援・協力した立場でありますので、大変申し訳なく思っております。

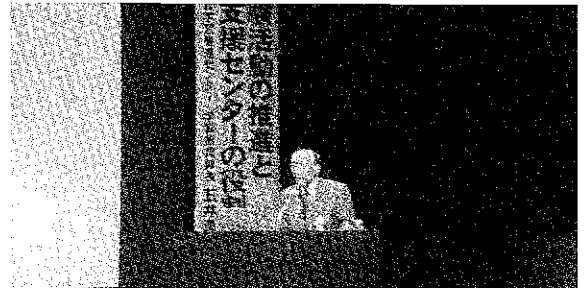
内容は、妊娠期、乳幼児期から思春期まで、また父親、祖母学級に至るまで、多岐にわたる家庭教育関係の事例が盛りられており、大変参考になります。

また、家庭教育啓発紙やたり、そして読み聞かせ講座の事例まで、盛り沢山な内容です。

家庭教育講座等の事例集

平成14年3月
新潟県立生涯学習推進センター
新潟県公民館連合会

平成14年度 中越地区 館長・主事・公運審研修会



△講演中の五井課長

- ・テーマ「住民ニーズに応じた生涯学習のすすめ」
- ・平. 14. 11. 28(木)
- ・長岡リリックホールにて
- ・215人の参加を得て

まず、「奉仕活動・体験活動の推進と支援センターの役割」と題して、県立生涯学習推進センター五井勇二学習振興課長から基調講演いただいた後、実践発表に移った。

- (1) 長岡市の学習人材バンク「まちの先生」の運営について
 - (2) 生涯学習コーディネーターと長岡市生涯学習相談室の開設について
 - (3) 長岡市高齢者大学の取り組みについて
- いずれも長岡市教委生涯学習課の担当主事並びに社教指導員から具体的な事例及び取組み状況について発表がなされた後、質疑・意見交換がなされた。こうして、研修の中公運にふさわしい充実した内容で、14年度の研修が無事終了した。

恵贈資料紹介

文芸「むらかみ」第23号(文芸むらかみ編集委)

文芸「さんぼく」第18号(山北町教委)

文芸「あらかわ」第9号(荒川町文化協会)

今年も、県北の三市町から文芸誌が恵送されて参りました。いずれも手づくりの労苦が行間ににじみ出ており、素材さと土の香りのする作品が多く掲載されております。

中でも印象に残りましたのが文芸「さんぼく」の巻頭、「伊能忠敬が山北を測る」です。本間教育長さんが精査されてのご執筆です。村岩地区小学校長会の

頃のことを思い出しながら読ませていただきました(訪れた佐原市の記念館のことなども)。



あとがき

◇あけましておめでとうございませう。昨年は、第43回関プロ大会の開催で大変お世話になりました。ありがとうございます。

表紙解説

大謀網漁

大謀網の始まりは明治41年で、鯛やブリが豊漁で村が豊かになりました。5月から7月上旬までが最盛期です。

(粟島浦村公民館)

発行所 新潟県公民館連合会

〒951-8053

新潟市川端町2-9・県林業会館内

TEL・FAX (025)224-6073

発行人 会長 今井昭友

編集人 事務局長 鈴木友夫

印刷 第一印刷所

〒950-8724

新潟市和合町2-4-18

TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776

【定価1部150円 年共1,800円】

◇新年早々、月報六百号(来月号)を機してA4判化二色刷りとなりませんが、その準備に入っております。今年もよろしくお願いたします。(鈴木記)